

重点取組分野	令和 7 年度		総括	重点取組分野	令和 8 年度		総括	重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
学習指導 (授業改善)	①指導主事を招聘して指導と評価の一体化育成を目指した研修を行い、育成を目指す資質・能力を明確にした校内授業研を実施し、子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。 ②1回、生徒による授業評価を実施し、集計結果を基に教員会などで共有し授業改善を行う。	①教科ごとに校内授業研を実施し、指導主事より助言をいただいた。また、生徒を主体的に学習に取り組ませるにはどうしたらよいかを話し合い、授業作りを行った。 ②生徒による授業評価をもとにして、授業改善の手立てとした。	B	学習指導 (授業改善)	①指導主事を招聘して指導と評価の一体化育成を目指した研修を行い、育成を目指す資質・能力を明確にした校内授業研を実施し、子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。			学習指導 (授業改善)			
道徳・人権教育	①人権意識を高めるために職員研修や講演会を行い、「誰もが安心して生活できる学校」を目指す。 ②学校教育全体で道徳教育を充実させ、生徒一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを目指す。	①夏季休業中に行った人権研修では、生命尊重の捉えについて考え、職員の意識を高めた。その中で「職業差別」の解消に向けて考え、「誰もが安心して生活できる学校」を目指した。 ②学校教育全体で道徳教育を充実させるように努め、生徒一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを目指した。	B	道徳・人権教育	①人権意識を高めるために職員研修を行い「誰もが安心して豊かに生活できる学校」を目指す。 ②道徳教育を学校教育全体で充実させ、生徒一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを目指す。			道徳・人権教育			
健康・安全教育	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会を生徒が主体になって運営できるようにする。 ②主体的に健康で安全な生活を実践することができるよう、計画的に健康・安全教育を実施する。	①保健体育科の授業では生徒が楽しんで参加できるよう工夫した。また、体育祭等の行事では、生徒の実行委員会を中心に進められた。 ②薬物乱用防止教室や保健委員による文化祭での発表、学校保健委員会などは、本校の実態に合わせた内容にするなど、学校薬剤師やスクールカウンセラーとも連携し、計画的に進められた。	B	健康・安全教育	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会を生徒が主体になって運営できるようにする。 ②主体的に健康で安全な生活を実践することができるよう、計画的に健康・安全教育を実施する。			健康・安全教育			
自分づくり教育 (キャリア教育)	①1年「職業講話」2年「職業体験」3年「進路学習」を中心に、自らの生き方を見つめ、より良く生きるためのキャリア教育を推進する。 ②歴史を学び、未来に向けて生徒一人ひとりが課題を設定して学びを進める「平和学習」を実践する。	①生徒にとって「新しい気づきと学び」につながるよう、計画の段階からいねいな実践を意識した。振り返りと修正を繰り返しながら内容の充実につとめた。また2学年では職場体験学習を実施し、地域の事業所で職業を体験した。 ②「平和学習」は継続するが、今後を見据えて「平和のハトン」をつなぐための教育活動を、学校全体で考え、支えていく。	B	自分づくり教育 (キャリア教育)	①1年「職業講話」2年「職業体験」3年「進路学習」を中心に、自らの生き方を見つめ、より良く生きるためのキャリア教育を推進する。 ②歴史を学び、未来に向けて生徒一人ひとりが課題を設定して学びを進める「平和学習」を実践する。			自分づくり教育 (キャリア教育)			
いじめへの対応	①全職員のいじめに対する感度を高くするとともに、生徒指導部と連携した教育相談や毎月の生活アンケートにより細かな変化を見逃さない体制をつくる。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に扱うことで再発防止に努める。また生徒の心情に寄り添って、積極的にいじめを認知する。	①全職員のいじめに対する感度を高くするため、月1回の生活アンケートを実施し、アンテナを高くしながら、より細かな変化を見逃さない体制をつくる。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認の徹底を確実にし、再発防止に努めることができた。今後も生徒の心情に寄り添い、積極的にいじめを認知していく。	B	いじめへの対応	①全職員のいじめに対する感度を高くするとともに、生徒指導部と連携した教育相談や毎月の生活アンケートにより細かな変化を見逃さない体制をつくる。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に扱うことで再発防止に努める。また生徒の心情に寄り添って、積極的にいじめを認知する。			いじめへの対応			
人材育成・ 組織運営(働き方)	①積極的に外部より講師を招聘し、ICTを活用した研究授業や評価についての校内研修を実施しながら教員一人ひとりの授業力向上を目指す。 ②メンター研修を行うことで、経験の浅い教職員の育成を図るとともに、中堅教職員の企画運営能力を高める。 ③働き方改革の視点から、業務の精選を図り、生徒や教職員にとって有意義な教育活動を展開できるよう研修を深める。	①教科ごとに指導主事を招いての授業研究や評価についての研修を行うことで、教員一人ひとりの力量を高めた。 ②メンター(中堅教員)が研修を計画運営することにより、経験の浅い職員のサポートするとともに、自身の経験を振り返り自らを見つめ直すきっかけとなった。 ③分担や実施状況について、振り返りをする中で業務の見直しに向けて確認する機会を持った。	B	人材育成・ 組織運営(働き方)	①積極的に外部より講師を招聘し、生徒に寄り添える特別支援の視点をもった校内研修を実施しながら教員一人ひとりの対応力を向上させる。 ②メンター研修を行うことで、経験の浅い教職員の育成を図るとともに、中堅教職員の企画運営能力を高める。 ③働き方改革の視点から、業務の精選を図り、生徒や教職員にとって有意義な教育活動を展開できるよう研修を深める。			人材育成・ 組織運営(働き方)			
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催を通して、支援に必要な生徒の思いに寄り添い、その実態把握に務める。 ②学校全体で不登校支援のための校内ハートフルーム運営に携わり、ICT機器を活用しながら、支援の充実を図る。 ③多様性を認め合う風土の醸成を目指し、教職員の研修を進め、生徒理解に必要な資質を向上させる。	①特別支援委員会を毎週ごとに定期開催し、支援に必要な生徒の実態把握やSC、SSWとの情報交換を行い、よりよい生徒理解と支援に繋げた。CO 学年主任、生徒指導専任、看護、管理職も出席し、更に本校の特別支援教育について深く考える時間となった。 ②校内ハートフルーム設置3年目になり、更なる支援の充実、安心できる環境が整った。その結果、不登校生徒が減少した。 ③全教職員向けの研修(個別的教育支援計画、個別の指導計画作成について)を実施するなどし、資質の向上に努めた。	A	特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催を通して、支援に必要な生徒の思いに寄り添い、その実態把握に務める。 ②学校全体で不登校支援のための校内ハートフルーム運営に携わり、ICT機器を活用して支援の充実を図る。 ③多様性を認め合う風土の醸成を目指し、教職員の研修を進め、生徒理解に必要な資質を向上させる。			特別支援教育			
生徒指導	①長期休業明けに教育相談日を設けたり、日頃から生徒の様子に気を配り、必要に応じて声掛けをするなど生徒一人ひとりの思いに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。 ②生徒指導研修会を複数回実施し、週1回以上、生徒指導担当教諭で集まり、職員間の共通理解を一層深く図る。また、Y-Pアセスメントを活用して支援検討会を行い、組織的な対応を行う。	①長期休業明けにアンケートを実施し、相談期間を設けて教育相談を行い、生徒の様子の把握に努めた。毎月の生活アンケートも継続し、見守り体制も続けている。 ②研修を複数回実施し、生徒指導に関する知識を全職員で深めた。週1だけでなく、その都度指導部で集まり、情報共有に努めた。	B	生徒指導	①長期休業明けに教育相談日を設けたり、日頃から生徒の様子に気を配り、必要に応じて声掛けをするなど生徒一人ひとりの思いに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。 ②生徒指導研修会を複数回実施し、週1回以上、生徒指導担当教諭で集まり、職員間の共通理解を一層深く図る。また、Y-Pアセスメントを活用して支援検討会を行い、組織的な対応を行う。			生徒指導			
地域協働活動	①学校家庭地域連携協議会を定期的に設け、学校の活動の情宣と地域との連携を図る。 ②学校運営協議会の運営に関わり、あざみ野学区の地域との連携・協働を図る。 ③地域防災拠点として、生徒への防災教育や地域と主体的にかかわる人物の育成に取り組む。	①学校家庭地域連携協議会にて社会全体で子どもを育てる体制づくりを確認し、地域行事への生徒の参加を推進した。 ②学校運営協議会にて生徒の日頃の様子や学校行事での活動の様子を参照してもらうことで、地域との連携・協働を図った。 ③地域防災訓練に美化防災委員が参加することで、地域の一員として主体的にかかわるよう意識させた。	B	地域協働活動	①学校家庭地域連携協議会を定期的に設け、学校の活動の情宣と地域との連携を図る。 ②学校運営協議会の運営に関わり、あざみ野学区の地域との連携・協働を図る。 ③地域防災拠点として、生徒への防災教育や地域と主体的にかかわる人物の育成に取り組む。			地域協働活動			
ブロック内 評価後の 気づき	○地域防災訓練に美化防災委員が参加することは、生徒への防災教育だけでなく、地域の一員としての意識が付き、大変良い活動だと感じた。 ○生徒による授業評価をもとに、授業改善の取り組みを実施しているのが良いと感じました。(学習指導) ○月1回の生活アンケート、いじめ防止対策委員会での情報共有や認知など、いじめの再発防止につながっている様子がわかりました。(いじめへの対応) ○中堅教員による研修の計画運営がよいですね。本校でもミドルの学級運営参画が課題なので、参考にします。 ○全校体制で生徒の実態に合わせて薬物乱用防止やいじめ防止に取り組む姿勢が素晴らしいと思います。月1回の生活アンケートや委員会を通して、生徒の小さな変化を見逃さず丁寧に向き合うことも中学生の心の発達段階においてとても大事だと思います。 ○毎月のアンケートによって、子どもたちの様子を把握しようとする取り組みは素晴らしいと思います。それをもとに、教職員で共有したり、対策を考えたりすることで速やかに対応がとれるのだからなと感じました。(本校でも実施できたらと考えています) ○各教科で指導主事を招聘しての研修や夏季休業中の人権研修等教職員向けの研修が充実しているところに関心を持った。薬物乱用教室や喫煙防止教室など社会人になるための自覚と責任を学ぶ学習が実施されているところも参考にしたい。			ブロック内 評価後の 気づき				ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価	○授業の様子や、体育祭や文化祭といった学校行事への生徒の取り組み姿に、小学校とは違った成長を感じる。 ○中学生の地域行事への参加について、夏祭りなどは盛んではあるが、日ごろからかわりをもてる機会が少ないように感じるので、情報連絡を密にしていきたい。 ○学力の向上も欠かせないが、人間的に成長するためには、行事や特別活動などでの活動を重視すべきだと感じる。			学校関係者 評価				学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り	・教科指導だけでなく、生徒理解の向上にむけての研修も、外部指導者を招く形で行った。教職員一人ひとりの意識を高めることができた。 ・各学年の段階ごとにキャリア教育の授業展開を設定し、生徒の成長を目指した。 ・特別支援教育委員会やいじめ防止対策委員会を充実させることで、生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校全体で支えていく意識を醸成することができた。 ・すべての教育活動が、学校目標である「自主・自律」を実現するためのものになるよう、これからも努力していく。			中期取組 目標 振り返り				中期取組 目標 振り返り			